

---

# 岡山医療生協労組 学習会

## 核廃絶のために いま何が必要か

---

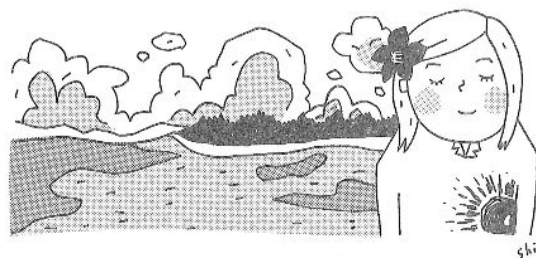


2011年7月1日

岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」

## 本日のポイント



- ◇なぜ労働組合が平和活動をするのか
- ◇核兵器をなぜなくさないといけないのか
  - 被爆の実相から
- ◇核廃絶をめぐる国際的な動き
- ◇知ること・伝えることの大切さ
  - 私たちにできること

## なぜ労働組合が平和運動をするのか



### ①ひとことでは、**“労働組合だから”**

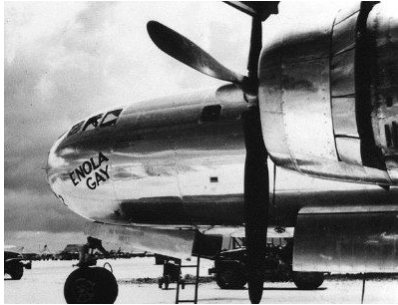
労働組合は、せまい、利己的な組織ではない。  
社会的役割をもつ。

### ②人間らしさ、**人間の尊厳を守り発展させる**

“人たるに値する生活”（労働基準法第1条）  
労働者がつくったもの、居住空間を破壊する  
戦争のために、税金をつかわせない  
（世界の軍事費は年間134兆円・2010年度）

# 被爆の実相—核廃絶の運動の起点

- ◇ 1945年8月6日8時15分
- \* 街の中心部をねらって
  - ・「相生橋」が目標地点
- \* 広島の当時の推計人口
  - ・34万～35万



B29 エノラ・ゲイ



リトルボーイ



原爆投下の目標になった相生橋 (広島市公文書館提供)

## どういふ人たちの上に落とされたのか。

- ◇「当日死者」の65%は、**子ども・女性・お年寄り**という**非戦闘員**  
\* 10歳未満の子ども18%、60歳以上のお年寄り8%、女性(10～59歳)39%



CGで復元した中島地区の街並み(現在の平和記念公園)。手前は広島県産業奨励館(現在の原爆ドーム)＝平和公園復元映像製作委員会提供



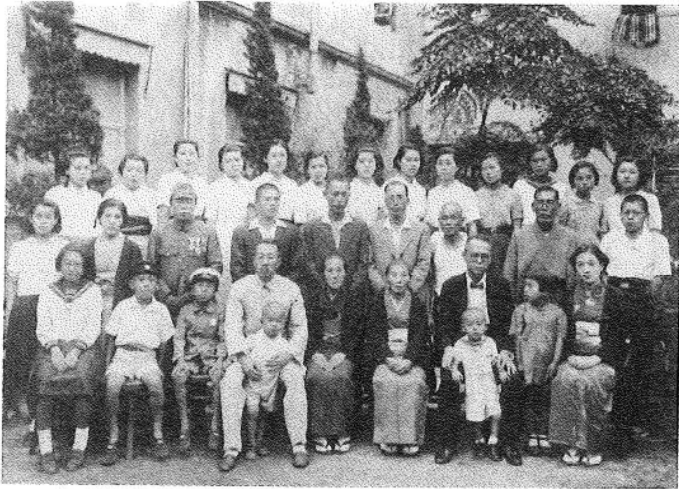
## 爆心直下（猿楽町） の子どもたち



猿楽町の子供たち。右から2人目が笠井恒男さん（同氏提供）



## ◇いつも患者でいっぱいだった…



島病院中庭。島薫院長と親族、病院関係者が集まった  
=1943年8月（島一秀氏提供）



\* 8月6日、院長の島薫さんは、市外に出張手術に来ていて、偶然助かる。しかし、80人余りの職員、患者は全員が即死。7日夜に病院に戻り、島さんは廃墟のなかからわずかに見えそうな救急資材を手に、**被災者の救護活動に夜を徹して取り組む**。手当ての甲斐なく、負傷者の多くは亡くなった。島さんは「数週間前には呉が、そして今度は私の町広島が！私の眼には涙が一杯たまった。『戦争とはこんなものか』と自問した」と回想している。

（以上は、『社史が語る 原爆・ヒロシマ』新日本出版社、2003年より）



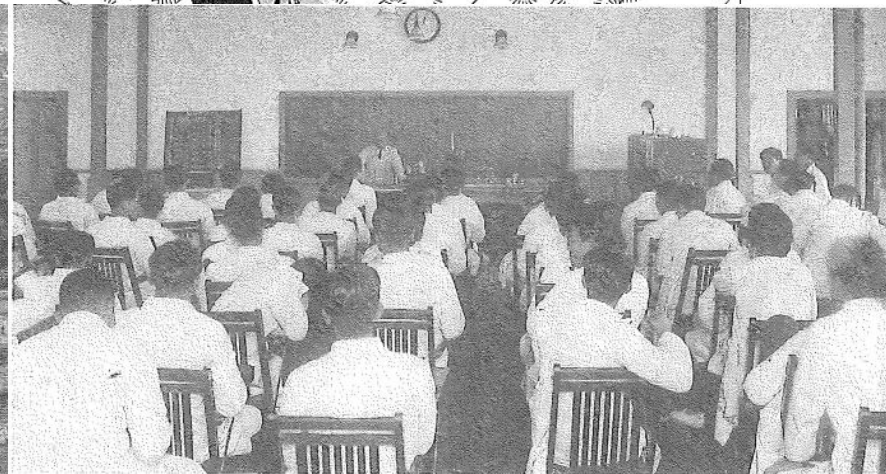
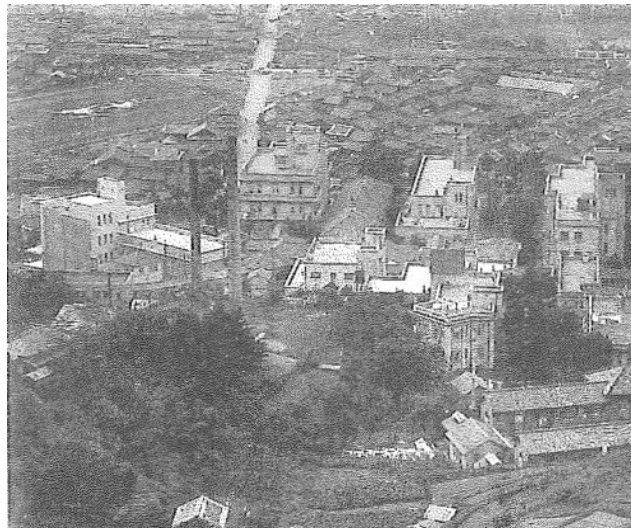
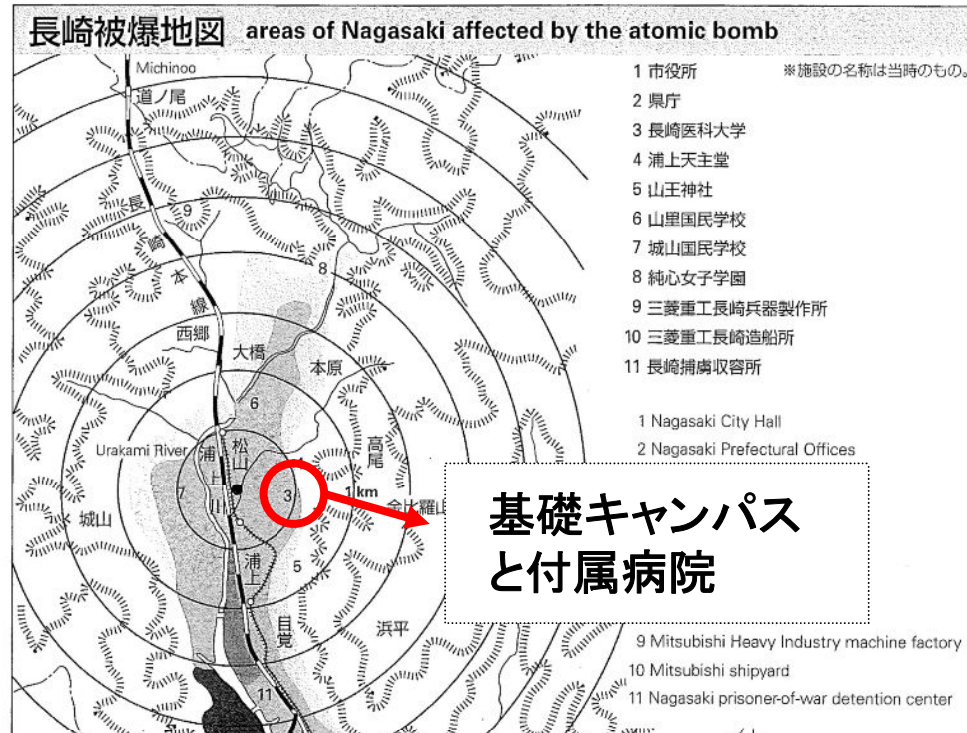
## 長崎医科大学

(爆心地から東へ300~600m)

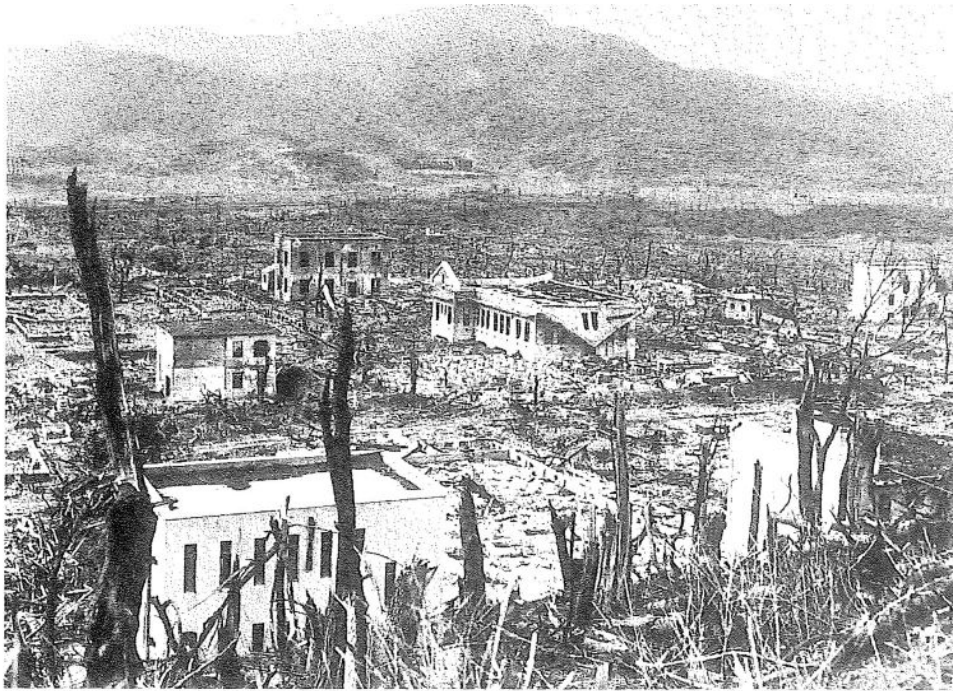
長崎地域の拠点病院であり、日本における西洋医学の中心病院として発展。

空襲時の市民の救護対策の中心病院としての役割を期待されていた。

ところが...



細菌学教室の講義

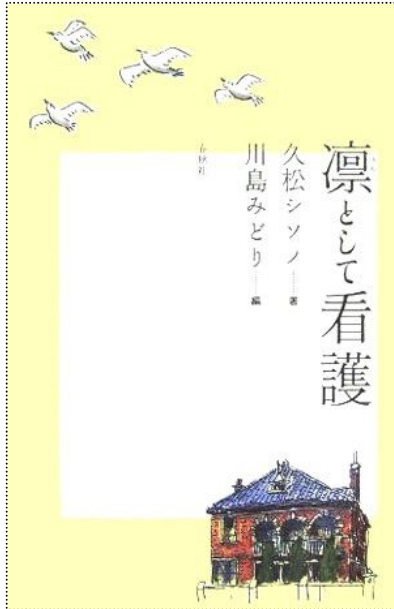


講義中の教室からすべてが消え去った基礎キャンパス全景

基礎キャンパスで講義に出席していた医学生410名は、全員死亡。

臨床キャンパスでも医学生210名中74名が死亡。教授も、医師も、看護婦も、看護学生も、患者も、事務職も…

「心身の健康がむしばまれ傷ついた人々を癒すことのみを使命とする病院や医学・医療の専門家を養成する医科大学が、個人としての人間の生命を守るため**暴力不可侵の最小限の聖域であることは、全世界に通じる合意のはずである。**大学の受けた傷は深く長期にわたった。とくに優秀な教授陣、新進気鋭の若手教官・学生をふくむ大量の人的損失による痛手は深刻だった。教育の連鎖が絶たれ、今日にいたってもその爪あとは完全に癒えていない。(略)誰もが医大が潰滅するなどと思ってもみなかった。それが全滅したのであるから、**一般市民への救護がいかに遅れて悲惨であったかは想像を絶する**」  
(小路敏彦『長崎医科大学潰滅の日』、九ノ丸出版)



## 『凧として看護』 (春秋社)

長崎医科大付属病院で、当時、病棟看護婦長をしていた久松シソノさんの回想。

「できることは一生懸命しましたが、薬も医薬品もほとんどないため、医療らしいことは何もしてあげられず、『休養が大切ですよ。安静にね。よく食べましょうね。元気を出してがんばりましょうね』などと言葉を添えてあげることが精一杯でした。看護婦としてほんとうに悔しい思いをしたのです。

(中略)それにしても、傍らに付き添いながらなにもできない無力感、あのむごたらしさ、惨めさ、悔しさは、看護婦として耐えられないことで、思い出すだけで、今も胸がうずくのです」

(『凧として看護』久松シソノ著・川島みどり編、春秋社)

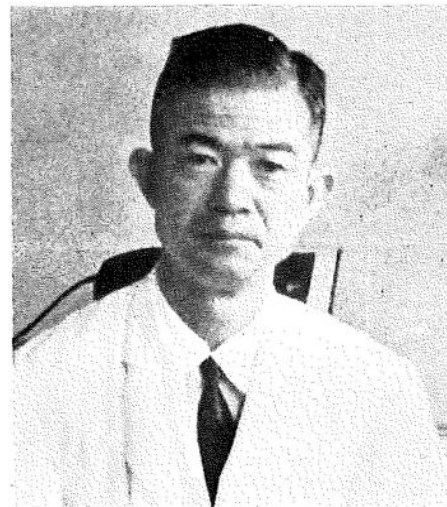


久松シソノ

「地獄のような悲惨、**医学と人間の無力さ**」

「いったい私になにができたのか。原子爆弾という未知の巨大な悪魔に対して、なんの知識も手立てもなく、徒手空拳で立ち向かうほかなかった」

(長崎、浦上第一病院の医師・秋月辰一郎)



「戦争が人々の記憶から遠ざかろうとしている。だが、忘れてはならないのだ、語り伝えなければならないのだ。それがどんなに悲惨で人間の尊厳を奪い尽くすものであるかを。『看護の質の向上』も、『その人らしく生きていくことを援助をする』ことの追求も、インフォームドコンセントも、**すべては平和だからこそその課題であることを認識しよう**」

(川島みどり『歩きつづけて看護』医学書院)

「被爆の悲惨さを知る私たちは、世界に何万発もの核兵器があることを踏まえ、**平和の尊さを語り継いでいかなければなりません**。現代人に必要なのは戦う勇気より平和を守る勇気です」

「東京大空襲の時には、多くの被災者が聖路加国際病院に運ばれてきました。**大やけどを負った大人や子どもたちが薬品もなく目の前で死んでいきました。その光景はいまも私の脳裏に焼き付いています**」

「私は命を守る医者です。命を脅かす最大のものが戦争です。だから私は日本が軍隊をもつことに同意できないし、**平和運動に徹するのは医者の務めです**」

（「全国革新懇ニュース、2007.9.10号」より）



日野原重明さん  
（1911年生まれ）

## 建物疎開学童の悲劇

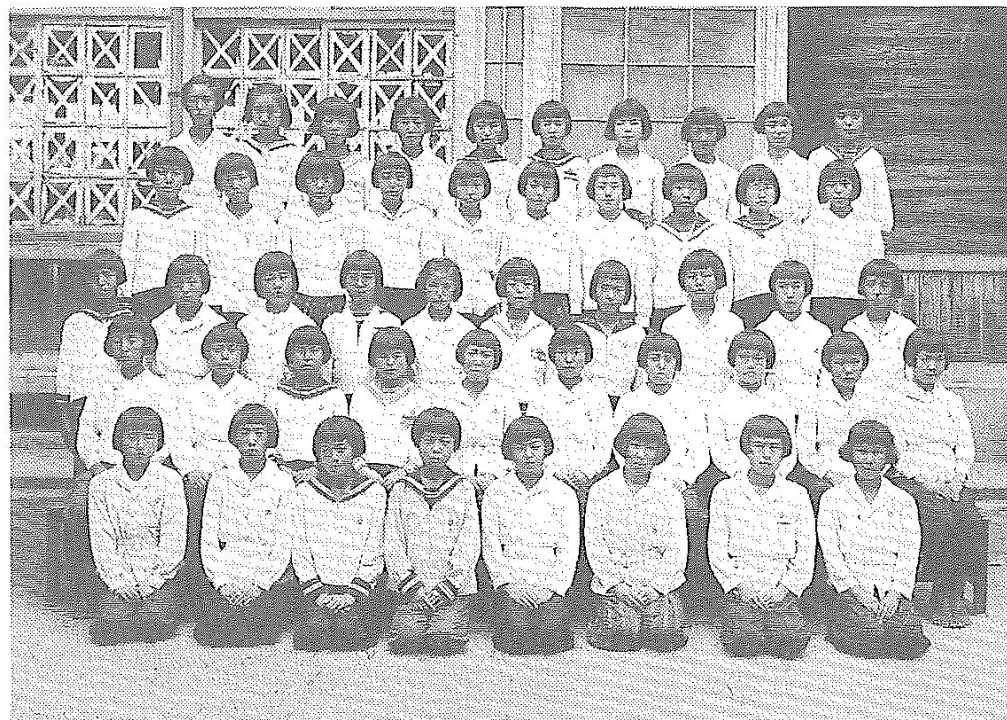
◇広島での建物疎開

\* 作業中に被爆、殺された学徒は約6000人。

\* 爆心地付近(現在の平和公園一帯)では、9校、約2,000名が全滅。戦争推進のための「総動員」の悲劇でもある。



県立広島第二  
高等女学校



## 仮繃帯所(ほうたいしょ)にて

峠三吉「原爆詩集」より



あなたたち  
泣いても涙のでどころのない  
わめいても言葉になる唇のない  
もがこうにもつかむ手指の皮膚のない  
あなたたち

血とあぶら汗と淋巴液とにまみれた四肢をばたつかせ  
糸のように塞いだ眼をしろく光らせ  
あおぶくれた腹にわずかに下着のゴム紐だけをとどめ  
恥かしいところさえはじることをできなくさせられた  
あなたたちが  
ああみんなさきほどまでは愛らしい  
女学生だったことを  
たれがほんとうと思えよう

焼け爛れたヒロシマの  
うす暗くゆらめく焰のなかから  
あなたでなくなったあなたたちが  
つぎつぎととび出し這い出し  
この草地にたどりついて  
ちりちりのラカン頭を苦悶の埃に埋める

何故こんな目に遭わねばならぬのか  
なぜこんなめにあわねばならぬのか  
何の為に  
なんのために  
そしてあなたたちは  
すでに自分がどんなすがたで  
にんげんから遠いものにされはてて  
しまっているかを知らない

ただ思っている  
あなたたちはおもっている  
今朝がたまでの父を母を弟を妹を  
(いま逢ったってたれがあなたとしりえ  
よう)  
そして眠り起きごはんをたべた家のこ  
とを(一瞬に垣根の花はちぎれいまは  
灰のわからない)

おもっているおもっている  
つぎつぎと動かなくなる同類のあいだ  
にはさまって  
おもっている  
かつて娘だった  
にんげんのむすめだった日を

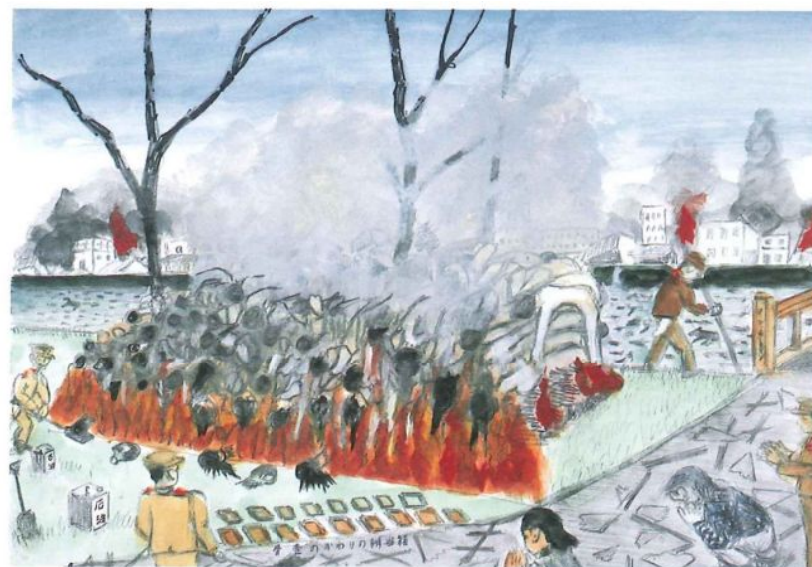
## 死体処理にかんする証言

「土手で人を、魚を焼くように次から次へと焼いていたことを、子供ながらに悲しい思いで見たこと、その臭いにいやな思いをしたこと」

(広島 直爆3.0km 女 9歳)

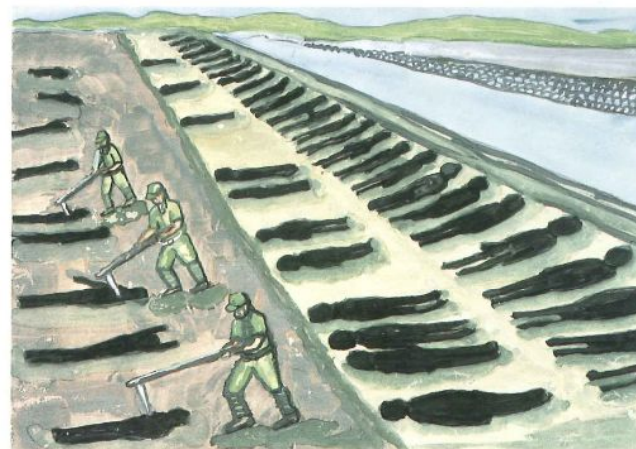
「兵隊さんが生きているか死んでいるかを確認するため、銃剣でぱーん、ぱーんとたたいて、亡くなっていたらトタンに乗せて運び、あらいもをころがすように穴に投げ込んでいた。そして山になると焼いた」

(広島 直爆1.5km 女 13歳)



川に浮かんだ死体を引っ張り上げて、俵積みにして焼いていた。  
体は燃えるが、頭は燃え残りころと落ちてくる。  
それをスコップですくっては、火の中へ放り込んでいた。

—牧野俊介



8月8日。市内の道路という道路で、  
兵隊が死体を引きずって並べていた。  
街中、死臭が漂っていた。

—田邊俊三郎



そこに、「1人ひとりの死」「人間らしい死」はあったのか。

◇「当日死者」のうち、家族に看取られながら死ぬことができた人は、わずか4%といわれている。

◇原爆は、「その死を確認するすべもない死」を強いた。遺族は、肉親の最期のときをさまざまに想像して苦しみ続けている。



平和公園内にある原爆供養塔。推定で7万人以上の遺骨がここに納められている。

きのこ雲の下で

1人ひとりの人間は...



人間を押しつぶす圧倒的(悪魔的)な力。

その後も、放射能によって殺され続けた人びと。

核兵器は、現在、人類を絶滅できる唯一の兵器。

**被爆の実相普及こそ、核廃絶への最大の力。**

# 人間をとりもどすー被爆者の苦悩と生き方

あらためて、原爆とは何か。  
1人ひとりの人間の視点で問い直す。

私たちは、被爆者の証言や苦難の人生、  
そしてその生き方をおして、原爆の本質にふれる。

「被爆者を理解しようと思うならば、常に人間を否定する力としてのみ働く原爆と、それに抗って生きていこうとする人間と、その二つの力のつばぜり合いとして被爆者をとらえなければなりません」(石田忠『原爆被害者援護法』)

# 原爆体験

引き戻られる  
差別や偏見  
無気力  
自責感・罪の意識

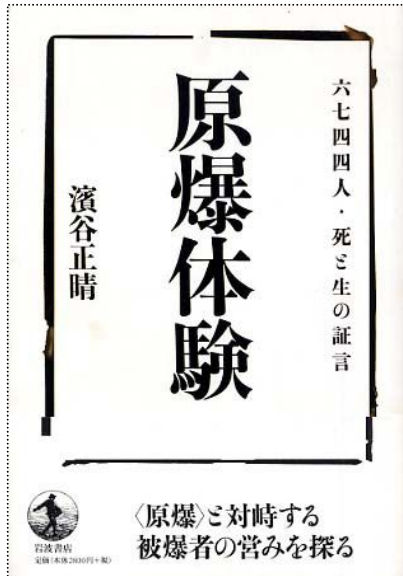
常に人間を押し  
つぶそうとする力

なくならない核  
病気への不安  
身近な人の死  
公的救済のなさ

## 人間らしい生

生きる意欲の喪失

# 被爆者の生きる支えはなんだったか。



『原爆体験—6744人・  
死と生の証言』  
濱谷正晴、岩波書店

- 「家族に囲まれて暮らすこと」(39.8%)
- 「核兵器をこの地球からなくすために生きること」(35.1%)
- 「安定した生活を築くこと」(34.6%)
- 「援護法制定の日まで生き抜くこと」(33.3%)
- 「多くの人とふれあうこと」(27.4%)
- 「趣味に生きること」(26.9%)
- 「原爆で死んだ人たちの霊をなぐさめること」(24.2%)
- 「被爆の証人として語り継ぐこと」(24.0%)
- 「地域や社会のために役立つこと」(22.3%)
- 「被爆者の仲間のために役立つこと」(21.6%)
- 「原爆に負けないようにすること」(16.5%)

■ 原爆とたたかうこと    ■ 人とのつながりのなかで生きる



## 『原爆と人間—21世紀への被爆の思想』

田川時彦、高文研

「被爆者にとって、生きるということは、体のなか、心のなかの原爆とたたかうことを意味した。原爆を消し去ることも、原爆から逃げることもできないとすれば、それに立ち向かい、それとたたかうことでしか生きようがないのである。それは、原爆によって壊された、自分たちの人間性をとりもどすたたかいでもあった」



「“にんげんをかえせ”の被爆者の生き方を、大きな使命感をもった人間共通の生き方へと転化させなければならない」

# 核兵器ゼロへー大きく動く世界

世界には、いまだに23,000発…の核兵器

## 国連常任理事国

アメリカ  
ロシア  
フランス  
イギリス  
中国

**原発がある国** 原子力発電は、核兵器をつくるために必要な、プルトニウムをつくりだす。

インド  
パキスタン  
イスラエル  
北朝鮮

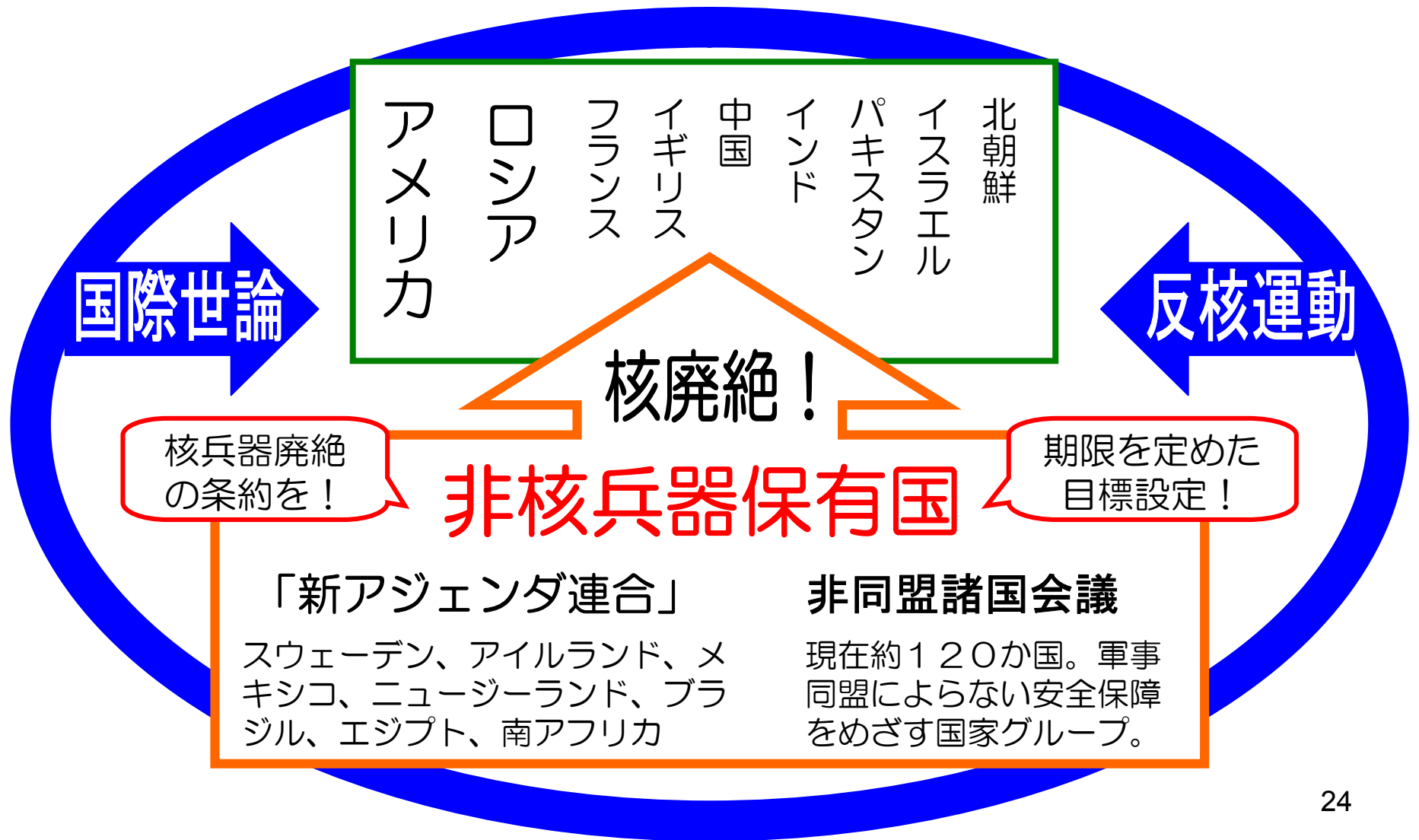
核不拡散条約 (NPT)によって、核独占をはかる核保有国

しかし、核は拡散…

核保有国の論理… 「核による抑止」

# 追い込まれる核保有国

—現在の核兵器廃絶の課題をめぐる構図





## 草の根の運動が、情勢を動かしている…！

NPT再検討会議2010年の最終合意文章では、  
「市民社会」の役割が初めて明記される



2010年5月2日、国連でNPT再検討会議議長のカクチュラン議長とドゥアルテ国連上級代表は、690万の署名を受け取るためにパレードの到着を待ち受けた。予定よりも1時間以上遅れたが、他の用務を返上し、「わたしは署名を受け取るためにここに来ている。デモの到着を待ちます」とコメント。さらに2人は、「直接700万の署名をこの目で見たい」と署名が積んである公園まで歩いていった。

さらに、NPT会議の冒頭カクチュランNPT議長は、「昨日、私は市民社会が集めた署名を受け取りました。私たちはこの大きな熱意に応えなければなりません」と述べた。



「私はみなさんがどれだけ犠牲を払って活動しているかを知っています。勇気を持って、人類の大志のために行動しつづけていることを知っています。核兵器廃絶は私の優先課題です。『核兵器のない世界』は達成できないゴールではありません。強い意志があれば達成できるのです。私は、核兵器禁止条約を核保有国に迫ります。政府を動かすには、みなさんの力が必要です。各国政府に迫りましょう」  
(潘基文<パン・ギムン>国連事務総長、2010年NPO再検討会議、NGO主催の国際平和会議で)

# NPT再検討会議で全会一致で採択された最終文章には…。

「すべての国が、核兵器のない世界を達成し維持するために必要な枠組みを確立するための特別な取り組みをおこなう必要について確認する」

「本会議は、核兵器のない世界の達成に関する諸政府や市民社会からの新しい提案およびイニシアチブに注目する」

「核兵器禁止条約の交渉の検討を提起している潘基文（パンギムン）国連事務総長の提案に注目する」



# 核兵器禁止条約にいたる交渉開始を 一日本原水協による新しい署名

「核兵器全面禁止のアピール」

**核兵器の禁止を**

*For a Total Ban on Nuclear Weapons*

あなたの署名を国連へ!

私たちは、すべての国の政府に、すみやかに核兵器禁止条約の交渉を開始するよう求めます。

田上富久 長崎市長  
クミコ 歌手  
松井一賢 広島市長  
張本 勲 日本プロ野球名譽会長  
益川敬英 名古屋大学特別教授  
大江健三郎 作家  
山田洋次 映画監督  
元ちとせ 歌手  
瀬戸内寂聴 作家・俳句  
日野原重明 参議院議員  
谷口稜暉 映画監督

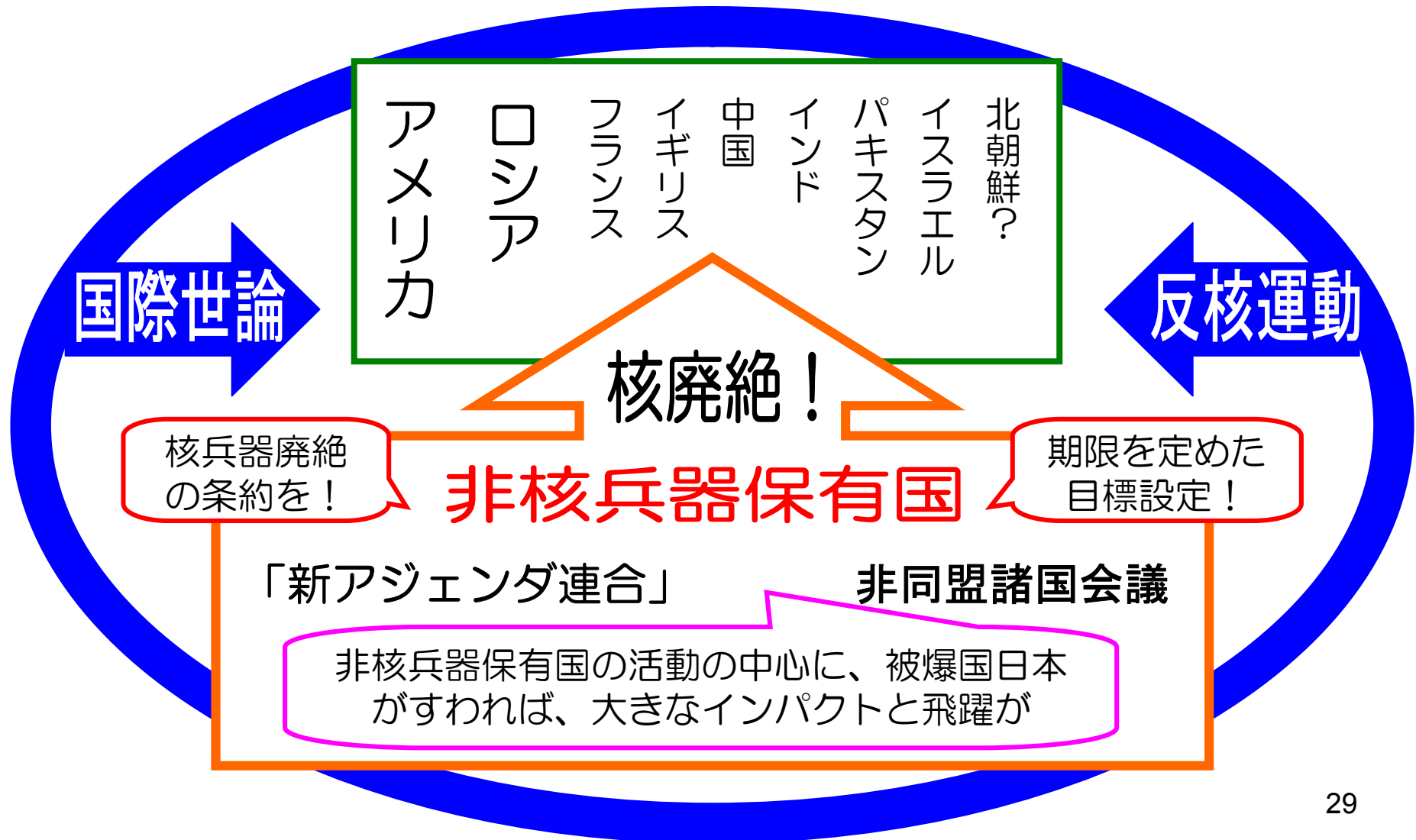
●実行員 ●「核兵器禁止条約のアドボカシー」国際署名キャンペーン 〒113-8454 東京都文京区湯島2-4-4 平和記念センター2階 実行事務局(日本原水協) TEL:03-5343-0021 URL: http://www.artban.org/

1人ひとりの署名が、  
世界を動かす！



この表を、もう一度よくみてください…

—被爆国、日本の政府は、何をしている？



## 署名が核の使用をとめたー歴史に学ぶ

1949年NATO（北大西洋条約機構）発足  
冷戦の緊張が高まり、原爆使用の危険も増大。

1950年3月。スウェーデンのストックホルムで世界平和擁護大会常任委員会が開かれ、「ストックホルム・アピール」が発表される。

1. 原始兵器の絶対禁止
2. 禁止を保証する厳重な国際管理の確立の要求
3. 原子兵器を使用する政府は、戦争犯罪人として扱う
4. 全世界の人びとに、このアピールへの署名を訴える

## ストックホルム・アピール署名

同じ年(1950年)の11月までに、世界で**5億人以上**が署名。

アメリカ	300万人
イギリス	120万人
フランス	1500万人
イタリア	1700万人
西ドイツ	200万人
東ドイツ	1704万人
ソ連	1億1551万人
中国	2億2375万人
日本	645万人

1950年6月に朝鮮戦争が勃発。

米国大統領トルーマンは、原爆使用を計画するが、世界世論の批判を受けて孤立することを恐れ、断念。

署名に示された国際世論が、原爆使用の手を押さえた。

人類史上、画期的な出来事。



「全世界で5億人以上の署名が集まったという、1950年のストックホルム平和アピールにはじまる平和運動は、宣伝として放置しておきたくなるが、それは非常に危険である。(中略)平和の重要なことと、核戦争の恐怖に同意することの外には、別に何も求めないというアピールは、殆ど抵抗を許さない力をもっていた」(ヘンリー・キッシンジャー『核兵器と外交』)



1954年3月1日 太平洋ビキニ環礁で水爆実験

日本の漁船・**第五福竜丸**が被曝。



# 原水爆禁止の全国的署名運動

草の根で取り組まれた署名は、**1年間で3200万人**に(当時の人口9000万人)。

第1回原水爆禁止世界大会の開催へつながる。



婦団連、婦人民主クラブなどによる原水爆禁止署名運動—東京・上野公園。1954.4.17 提供・連合通信  
ビキニ水爆被災事件は、3月16日の新聞報道で日本国民に衝撃的に知らされた。三たび許すまじ原爆をの声とともに署名運動が全国に広がった。

この日本の運動と世論が、1954年のアメリカによるベトナムへの核兵器使用をふたたび断念させる力になった。

# 1955年8月 広島で**第1回原水爆禁止世界大会**

14か国52人の海外代表と、2600人の日本各地の代表が参加。



原水爆禁止世界大会（第1回）開会総会＝1955.8.6 提供・中国新聞  
14か国3国際団体52人、日本全国から2575人の代表が参加した。

# 原水爆禁止2011年世界大会

8月6日広島、7日～9日長崎



学び、交流し、考える。

2011 国民平和大行進 7月16日～26日



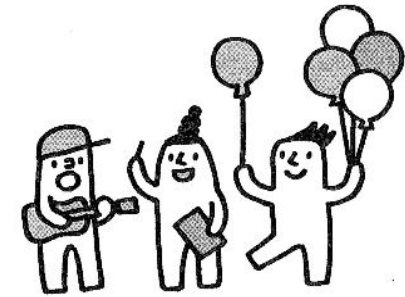
歩いて、核廃絶をアピール

伝え方は多様でいい—自分なりの表現で

ヒロシマのある国で、フクシマのある国で、  
日本国憲法がある国で…。

ヒロシマのある国で(山本さとし)

八月の青空に 今もこだまするのは  
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声  
あなたに感じますか 手のひらの温もりが  
人の悔し涙が 生き続ける苦しみが  
わたしの国とかの国の 人の生命(いのち)は同じ  
このあおい大地のうえに同じ生を得たのに  
ヒロシマの有る国で しなければならないことは  
ともるいくさの火種を 消すことだろう





おつかれさまでした。